平成２７年度
九州クルーズ振興協議会総会

「ぱしふぃっくびいなす」（日本クルーズ客船(株)）

「にっぽん丸」（商船三井客船(株)）

日 時:　平成 27 年 7 月 27 日(月)　11 時 00 分～
場 所:　くまもと森都心プラザ　5 階プラザホール

九州クルーズ振興協議会

議題1. 平成26年度　事業報告

1. クルーズ船の九州各港への寄港状況

平成 26 年の九州（下関含む）へのクルーズ客船の寄港は、中国資本によるクルーズ船が相次いで運航を開始するなど、4-6 月期以降急激に増加、対前年比182．1％（外国船 280.7％、日本船 91.1％）の 315 回（外国船 233 回、日本船 82 回）となった。

これは過去最高となった平成 24 年の 333 回に次ぐ水準であるとともに、外国船に限っては、平成 24 年の 228 回を抜いて過去最高となった。

管内クルーズ船入港実績数比較

（単位:隻）

地域	北九州市	福岡市	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	下関市	管内合計
平成25年	5	38 （19）	3	48 （35）	6	13 （8）	3	54 （20）	3 （1）	173 （83）
平成26年	1 （1）	115 （99）	3	92 （77）	6 （2）	12 （9）	9 （4）	69 （40）	8 （1）	315 （233）

※（　）は外国クルーズ船の入港隻数（内数）である。

2. セミナー及び見学会の開催

◆クルーズ協議会総会を活用した情報交換・セミナーの開催

日　時：平成 26 年 6 月 18 日（水）

場　所：九州運輸局 7 階会議室

総会の様子

【第 1 部】 総会と情報交換　13：30～14：30

●寄港地オペレーションについて

講　師：郵船クルーズ株式会社運航部　部長代理　村山　公崇　氏

●2013 年の我が国のクルーズ等の動向について

講　師：国土交通省海事局外航課輸送第一係長　内藤　岳大　氏

●九州地方整備局におけるクルーズ振興への取り組みについて

講　師：九州地方整備局港湾空港部港湾物流企画室　課長補佐　的野　賢司　氏

➢　総会出席者約 70 名

郵船クルーズ村上公崇　氏

海事局外航課　内藤岳大　氏

九州地方整備局　的野賢司　氏

【第 2 部】海事振興セミナー　14:30～16:00

●クルーズ船寄港による地域活性化～経済効果と取り組むべき課題～

講　師：大阪大学大学院国際公共政策研究科 教授　赤井　伸郎　氏

概　要：（公財）九州運輸振興センターと共催により、クルーズ協議会総会の第 2 部として開催。一般参加も加わり約 140 名が参加した。

セミナーの様子

大阪大学大学院教授　赤井伸郎　氏

◆シーボーンクルーズ勉強会の開催

日　時:平成 26 年 11 月 17 日（月）13:30～15:00

場　所：九州運輸局７階会議室

テーマ：スモールラグジュアリー客船「シーボーンクルーズ」について

講　師：(株)ターミナル　セールス＆マーケティングディレクター　一柳　元子　氏

概　要：スーパーラグジュアリークラスのクルーズの内容、特にショアエクスカーション等の対応について説明をうけた。２６名が参加した。

◆「クルーズセミナーと船内見学会」の開催

日　時：平成 27 年 1 月 7 日（水）　13:30～15:30

場　所：宮崎港停泊中の「にっぽん丸」（22,472 総トン）船内

演 題：「クルーズ旅行の愉しみ方」

講　師：(株)JTB 九州 クルーズ販売課長（クルーズマスター）　中島 秀二 氏

概 要：当協議会と宮崎市、宮崎県ポートセールス協議会、宮崎港振興協会との共催により開催。事前に応募のあった宮崎市民 100 名がセミナーと見学会に参加した。

宮崎港停泊中の「にっぽん丸」

セミナーの様子

船内見学会の様子

３．クルーズ行事への協賛・後援

①クルーズ船の歓迎式典等への協賛

◆ダイヤモンド・プリンセス（115,875 総トン）」歓迎式典

日　時：平成 26 年 5 月 3 日（土）　11:30～12:00

場　所：博多港中央埠頭

概　要：福岡市からの要請により、博多港初入港となるプリンセス・クルーズ社が運航する「ダイヤモンド・プリンセス」の歓迎式典に参加し、田中会長から記念品を贈呈した。

「ダイアモンド・プリンセス」

田中会長から記念品贈呈

参加者全員で記念撮影

◆「にっぽん丸（22,472 総トン）」出港式典（「飛んでクルーズ九州」後援事業）

日　時：平成 26 年 10 月 24 日　16:15～16:30

場　所：博多港中央埠頭　9 号岸壁

概　要：博多港発着の国内クルーズ（博多→土佐清水→鳥羽→博多）の出港式に参加。当協議会からにっぽん丸船長に花束を贈呈、見送り行事に参加した。

なお、27 年度から本来の九州発着による九州内のクルーズに戻る予定。

乗船客：386 名（うち九州内 87%）

船長に花束贈呈

和太鼓演奏

テープセレモニーによる見送り行事

◆「チャイニーズ・タイシャン（24,427 総トン）」歓迎式典

日　時：平成 26 年 11 月 29 日（土）　11:30～13:00

場　所：博多港中央埠頭　5 号岸壁

概　要：福岡市からの要請により、博多港初入港となる渤海クルーズ社が運航する「チャイニーズ・タイシャン（中華泰山）」の歓迎式典に参加し、事務局から記念品を贈呈した。

停泊中の「チャイニーズタイシャン」

事務局から船社に記念品贈呈

参加者全員で記念撮影

◆「セレブリティ・ミレニアム（90,963 総トン）」歓迎式典

日　時：平成 27 年 2 月 19 日（木）　11:30～13:00

場　所：博多港中央埠頭　5 号岸壁

概　要：福岡市からの要請により、博多港初入港となるセレブリティクルーズ社が運航する「セレブリティ・ミレニアム」の歓迎式典に参加し、田中会長から記念品を贈呈した。

「セレブリティ・ミレニアム」

田中会長から記念品の贈呈

全員で記念撮影

②諸会議・イベントの後援等

◆「PORT of MOJI クルーズセミナー」の後援

日　時：平成 26 年 8 月 8 日(金) 14:00～16:00

場　所：旧大連航路上屋(北九州市門司区西海岸 1-3-5)

概　要：外国船社代理店、日本船社及びクルーズ愛好家によるそれぞれの立場からの講演会。
参加者約 70 名。

セミナー会場

講演の様子

クルーズ船パネルの展示

◆「瀬戸内クルーズセミナー・おもてなし実地研修」の共催

主　催：瀬戸内海観光連携推進会議

共　催：九州クルーズ振興協議会、中国地方クルーズ振興協議会、関西クルーズ振興協議会

日　時：平成26年11月17日(月) 13:30～18日(火)15:00

会　場：海峡メッセ下関(17 日)、飛鳥Ⅱ船内(18 日)下関港アルカポート岸壁

参加者：セミナー 89 名、実地研修 67 名

セミナーの様子

パネルディスカッション

個別商談会の模様

◆「クルーズランチ商談会」の後援

日　時：平成 27 年 1 月 15 日（木）　14:00～16:00

場　所：福岡市役所 15 階

概　要：講　演「福岡市のクルーズ振興について」 福岡市港湾局クルーズ課長　中村　均　氏

パネルディスカッション「寄港地ツアーと昼食会場の条件について」

参加者：約 120 名（旅行代理店 18 社、飲食店等 33 社）

福岡市長あいさつ

パネルディスカッション

商談会の様子

４．インバウンド部会

◆**第 8 回**　平成26年8月8日（金）13:30～15:00

参加者：33 名

【議　事】

①観光立国実現に向けたアクションプログラム

②英語版ホームページの作成

③クルーズ・シッピング・アジア・パシフィック２０１４

④情報交換

・各自治体から「最近の状況及び今後の取り組み」

⑤入国審査について

第 7 回インバウンド部会の様子

◆**第 9 回**　平成 26 年 12 月 18 日（木）13:30～15:30

参加者：40 名

【議　事】

①改正入管法について

②九州運輸局の取り組み

③クルーズ・シッピング・アジア・パシフィック２０１４

④アジア・クルーズ・ファンドについて

⑤情報交換

第8回インバウンド部会の様子

◆「クルーズ・シッピング・アジア・パシフィック2014」への出展概要

開催期間：平成 26 年 11 月 19 日（水）～21 日（金）

場　所：香港コンベンションセンター（香港）

参加者：福岡市、（公財）福岡観光コンベンションビューロー、長崎県、熊本県、（公財）みやざき観光コンベンション協会、鹿児島県、（公財）鹿児島県観光連盟、九州観光推進機構、九州運輸局

概　要：VJ 地方連携事業として九州ブースを出展し、九州観光及び寄港地を PR したほか、クルーズ船社や旅行会社との商談・意見交換を行った。また、香港にあるスタークルーズ社やEGLツアー社を訪問し、九州をPRした。

九州ブースの外観

九州ブースでの観光ＰＲ

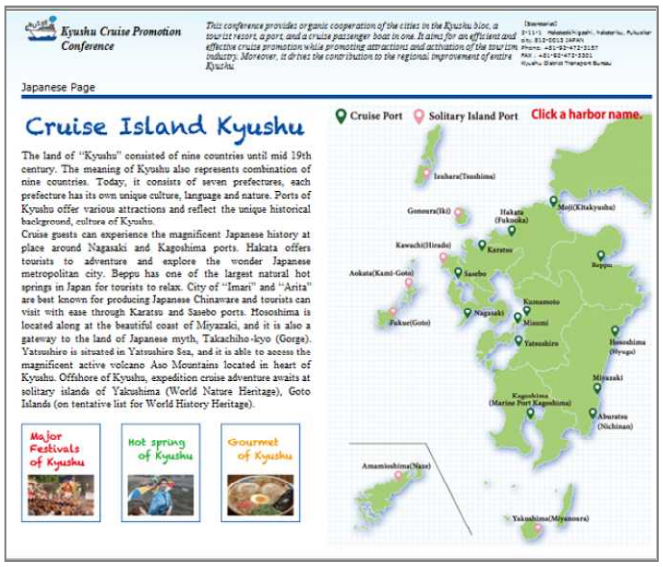
５．広報・宣伝活動

①協議会ホームページに英語版を追加

九州におけるクルーズ情報の発信や会員相互間の情報共有を促進する有力なツールとして、平成 26 年 2 月 19 日に開設、徐々にコンテンツの充実を図っています。

本年度は、九州の港湾、観光情報を紹介する英語版のページを追加した。

URL は、http://www.kyushu-cruise.com/



英語ページでの港湾・観光ＰＲ

②宮崎みなとまつり 2014

開催期間　平成 26 年 5 月 5（月）～6 日(火)

場　　所　宮崎港　国際観光船バース

内　　容　宮崎運輸支局ブースにおいて邦船３社のパネル展示を行い、邦船社の営業パンフレット、JOPA 作成「クルーズ船旅の魅力」ほかを配布した。

来場者数　２日間で約 11 万人が来場し、当ブースには少なくとも 700～800 人が来訪、用意したクルーズパンフ類（約 100 セット）は、初日数時間でなくなった。

パネルの掲示(初日小雨模様)

パネルの掲示(2 日目)

パンフ類の配布

③関門ボート天国

開催期間　平成 26 年 7 月 20 日（日）9 時～15 時
場　　所　北九州市門司区門司港レトロ（旧門司税関）
内　　容　海の日にちなんだイベントの一環として、クルーズ船パネルの展示とともに、クルーズ船パンフレットを配布した。
入館者数　1,436 名

海上の入口付近

クルーズパネルの掲示

館内の様子

６．その他

◆日韓定期旅客航路活性化協議会の発足

日　　時　平成 26 年 10 月 15 日(水)10 時～12 時
場　　所　九州運輸局 7 階会議室
概　　要　低迷する日韓航路を活性化させるため、九州運輸局の呼びかけで、日韓航路に関係する船社や行政、観光関係者を構成員にして発足。昨年 11 月に航路利用者にアンケートを実施し、本年度は、その結果に基づいた活性化策を検討する。

議題3. 今後の活動方針について

協議会発足後約 12 年経過し、クルーズをとりまく状況が変化してきたことから、向こう 5 年間の中期的な方針として提案することとしたものである。ただし、今後の更なる状況の変化に応じて弾力的な対応をとることとする。

活動の基本

本協議会の活動は、次の事項を基本として行う。

1. 会員相互が連携して、一体的にクルーズ客誘致や観光産業の活性化を推進する。
2. 活動内容については、クルーズ船の寄港状況に応じた重点項目を設け、活性化に取り組む。
3. 各地のクルーズ振興協議会や全国クルーズ活性化会議※等と連携して活動を行う。

※外航クルーズ船の寄港促進等に関し、共通の視点・課題を有する港湾管理者等が集い全国レベルでクルーズ振興、誘致等を図り、港を通じた地域振興・経済の活性化等に資することを目的として2012年11月に設立された。港湾管理者や地方公共団体など100を超える団体が加盟している。

クルーズに関する現状認識・課題

政府は、アクション・プログラム 2015 において 2020 年にクルーズ船による外国人入国者 100 万人を目指している。2014 年の実績としては、外国人入国者は 41.6 千人であるのに対して、外航クルーズを利用した日本人乗客者数は 13.8 万人、国内クルーズを利用した日本人乗客者数は 9.4 万人（合計 23.1 万人）にとどまっているのが現状である。

外国船社が運航するクルーズ船の寄港は伸びており、特に、中国国内の旺盛なクルーズ需要を背景に、中国発着クルーズ船の九州寄港が今後も増加することが見込まれるが、国内クルーズについては、国内の豊富な海洋観光資源を十分に活かしきれていない状況である。

今後、クルーズの更なる振興を図り、九州寄港を促進するためには、以下の課題があると思われる。

1. 国内クルーズについては、国内の豊富な海洋観光資源を十分に活かした新たな旅行商品の造成等による市場開拓の余地が大きいので、今後の取り組みが必要である。
2. 各港湾が連携して誘致活動に取り組み、「九州」としての魅力を高める必要がある。
3. 誘致実績が十分な港湾とこれから誘致を始める港湾の連携が必要である
4. クルーズ船の急増に伴う、貸切バスやバス駐車場の確保が課題である。
5. 路線バス等の二次交通手段の利便性向上を図る必要がある。
6. 一部の外国船社による低品質なクルーズによる弊害が懸念される。

今後の活動方針

1. クルーズ人口拡大、普及のため、従来どおり以下の広報宣伝活動等を継続して実施する。
   ①クルーズセミナー、クルーズ船見学会
   ②クルーズ船入港記念式典への参加
   ③ホームページを活用した情報の発信
   ④クルーズシンポジウム

2. 国内クルーズ・船旅が身近になるような環境整備を進めるため、各地のクルーズ振興協議会と共同で、国内クルーズの活性化に資する以下の旅行商品等のホームページ等による広報宣伝に努める。
   ①離島や瀬戸内海を巡るクルーズ
   ②世界遺産を巡るクルーズ
   ③船旅の特性を生かした魅力のあるイベント
3. 外航クルーズの高品質化や新規需要の開拓促進のための環境整備を進めるため、九州運輸局観光部と連携して取り組む。
   ①中国発クルーズ旅行の持続的発展のための高品質化
   ②世界遺産などを活用した欧米クルーズ船の誘致
   ③世界やアジアのクルーズ市場の動向を踏まえた九州へのクルーズ誘致戦略の多様化
4. 外航クルーズ船受入れに伴う新たな諸課題に対して、インバウンド部会を活用して取り組む。
   ①九州運輸局（自動車交通部等）と連携して、貸切バスの供給確保や貸切バスに係る諸手続きに関する情報交換
   ②二次交通の利便性向上や乗換円滑化を促進するため、関係自治体や交通機関との情報交換
   ③国土交通省の出先機関を中心に設置した「訪日 2000 万人受入れ九州ブロック連絡会」での検討内容の情報共有

議題4. 平成27年度　事業計画

1. セミナー及び見学会の開催

- 一般市民及び会員への情報提供･意識啓発を目的にしたシンポジウムを開催する。
- 国内クルーズ船社等との連携により、クルーズ人口の増加に資する、一般市民を対象としたクルーズセミナーや船内見学会を開催する。
  - ・ 7 月にシンポジウムを開催する。
  - ・ 11 月に飛鳥Ⅱ･クルーズセミナーと船内見学会開催する。

2. クルーズ行事への協賛・後援

- 各港湾管理者等からの要請に応じ、クルーズ客船の初入港歓迎式典等に協賛する。
- クルーズセミナー、シンポジウム等本協議会の目的に沿った行事が開催される場合にあっては、主催者からの要請に応じて協賛、後援等必要な協力を行う。
- 九州フライ（レール）＆クルーズの後援（歓送迎の実施、広報等）

3. 外国クルーズ船の誘致活動（インバウンド部会）

- 中国発クルーズ旅行の「高品質化」をめざすと共に、持続的発展に向けた情報交換を行う。
- ビジット･ジャパン事業に係るクルーズキーパーソン招請事業の情報を基に、外国クルーズ船の誘致に取り組む。
- クルーズ船受入れに伴う諸課題に対する意見交換を行う。
  - ・ 九州運輸局（自動車交通部等）と連携して、貸切バスの臨時営業区域の拡大手続き等の情報交換
  - ・ 九州運輸局（自動車交通部、交通政策部）と連携して、二次交通の利便性向上のための多言語対応やダイヤ等実用情報のウェブ発信について情報交換
- 各自治体のクルーズ関係者と受け入れ体制、新たな課題や取組について情報交換を行う。

4. 広報・宣伝活動

- 本協議会ホームページの活用を図るため、本年度においては、各会員が実施するイベント情報、キャンペーン情報を掲載する等コンテンツの充実に努めるとともに、ホームページの周知を図り、アクセス数の増加に努める。
- 旅客船や観光関係の会員と連携して、離島や瀬戸内海を巡るクルーズや日本一周クルーズなど、日本人に訴求する旅行商品の広報に努める。

5. その他

- 外航旅客定期航路事業の利用促進に資する取り組みを行う。
- ホームページ等を活用して本会の趣旨への賛同者を増やし、新規会員の加入を図る。